



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1/TEL 045-628-6100(代)
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

●発行：2020年1月 医療連携センター

Contents

- ・ 2020年のご挨拶 P1
- ・ 大動脈弁治療「TAVI」を開始しました P2
- ・ 栄養管理センターからのご挨拶 P3
- ・ 難病医療支援病院に指定されました P4
- ・ 新任医師のご紹介 P4



2020年のご挨拶 みなと赤十字病院は開院15周年を迎えます

横浜市立みなと赤十字病院 院長 伊藤 宏



明けましておめでとうございます。

日頃より、横浜市立みなと赤十字病院の医療活動に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当院は本年も良質な医療の提供と地域の皆さまの健康増進に貢献するため、全職員一丸となって邁進してまいりますので、どうか宜しくお願い申し上げます。

当院は本年4月に開院15周年を迎えます。2005年4月に当院は、横浜市が開設者、日本赤十字社が指定管理者となって運営を行う全国でもめずらしい開設運営形態の病院としてオープンしました。それから15年間、当院は市民のための市立病院として、さらに、人道博愛の赤十字精神に基づいて医療活動を行う赤十字病院として、使命を全うしてまいりました。開院時の病床数は584床、診療科数は23診療科でしたが、現在では634床、37診療科で運営しています。

その間、地域医療支援病院の認定、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターの指定、神奈川県アレルギー疾患医療拠点に選定されるなど地域の医療に貢献してまいりました。

地域医療連携は当院の活動の大きな柱のひとつです。その活動の中心的役割を医療連携センターが担っています。当センターは、地域医療機関と当院を繋ぐ窓口としての業務を行う医療連携課、患者さんの様々な課題についての相談などに応じる医療社会事業課、そして入院前から退院後のことまで切れ目のない患者支援を行う入退院支援センターの3部門からなります。

これらの活動を通じて、当院の各診療科が提供する高度で良質な医療をスムーズに地域の皆さまにお届けできています。

当院が無事に15周年を迎えられるのも、登録医の先生方をはじめ多くの皆さまのご支援とご協力の賜です。どうか本年も宜しくお願い申し上げます。



カテーテルによる大動脈弁治療「TAVI」を開始しました

心臓血管外科 部長 伊藤 智

本年8月より経カテーテル的弁置換術(TAVI: Transcatheter Aortic Valve Implantation)を開始しました。

これまで治療を行った患者さんは、全て80歳以上のリスクの高い高齢者でしたが、経過は良好で1週間程度で退院が可能でした。TAVIとは、近年、増加している心臓弁膜症の大動脈弁狭窄症に対して行う患者さんへの負担が小さい手術治療です。

大動脈弁狭窄症の標準的な治療は「人工弁置換術」という外科手術です。この治療法は、全身麻酔をかけて胸を切開し、人工心肺という生命維持装置を使って、狭くなった大動脈弁を切除し、人工弁に取り替えるという治療です。この手術を受けるには、ある程度の体力が必要で、全身状態が良くない患者さんには手術が難しいことがあります。

TAVI治療では、今までの外科手術で使用していた人工弁と類似のものをボールペン程度の太さに折りたたむ技術によって施行可能となりました。患者さんの足の付け根もしくは胸部を数cm程度切開し、大動脈内にカテーテル(針金のような細い管)を通し、カテーテルに沿って折りたたんだ人工弁を狭くなった心臓の出口まで挿入し、人工弁を広げ、留置します。広げられた人工弁は、狭くなった大動脈弁に変わり機能し始めます。この治療は、人工心肺を使用せず、傷も小さいため、患者さんにかかる負担が少ないです。

メリット

- 低侵襲治療であり、今までの手術に比べて体への負担が少ない
- 年齢や体力等の理由により、外科手術が行えない患者さんでも可能
- 入院期間が短い
- 比較的早い社会復帰が期待できる

このTAVI治療は、各種検査の結果を踏まえて、ハートチームメンバーでカンファレンスを行い最適な治療方針を決定します。TAVI、開胸手術、保存的加療(薬物治療)のいずれがより良いか判断します。

ハートチーム

当院では、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、臨床工学技士、放射線技師、臨床検査技師、理学・作業療法士、看護師等、TAVI治療を担う「ハートチーム」を結成しています。

メンバーは、その経験や知識を集結させ、担当する診療科の垣根を越えて、患者さんに合う最適な治療方法やタイミングを選択・提供しています。

患者さんが元気になってご退院されること、それが私たちハートチームの想いです。

どうぞお気軽にご相談ください。



ハートチーム

栄養管理センターからのご挨拶

栄養管理センター長 馬場 裕之



[はじめに]

栄養管理センターは、栄養関連業務を総合的にかつ俯瞰的に管理運営する部門として2019年4月に発足しました。栄養関連部門は大きく分けて二つあり、給食管理や病態に応じた

栄養指導を行う栄養部と、チーム活動(栄養サポートチーム:NSTおよび摂食・嚥下機能チーム)を担う栄養治療サポート部です。それぞれの活動の一部をご紹介します。

[栄養部]

食品ロスについてご存知でしょうか?賞味期限切れや食べ残しにより、まだ食べられるのにも関わらず破棄される食品のことを指します。世界全体では生産量の1/3が、日本では年間食品廃棄物のうち約20%強が食品ロスによるものと推計されています。廃棄処理における環境への負担も大きいことも見逃せません。栄養部では準備する食材量、不必要な配膳そして食残量を極力減らす取り組みを行い、食品ロスを少なくするよう日夜取り組んでいます。

[栄養治療サポート部]

最近の疾患治療は高度化し、極めて複雑な治療が

実施されるようになりました。しかし残念ながら治療は注目されますが、治療を有効なものにするための「体力」と表現される患者の栄養状態を論じないことが比較的多く見受けられます。経口摂取(場合によっては経管栄養)を継続することによる腸管の機能維持は感染防御に貢献すること、また手術では栄養状態が良ければ術後合併症が少なくなることが報告されています。栄養サポートチーム(Nutrition support team: NST)は積極的に栄養管理に介入し、管理栄養士のきめ細やかなベッドサイドでの活躍とともに、入院中の低栄養を回避し、治療をサポートする活動を推進しています。

[おわりに]

栄養状態は一朝一夕に変化するものではなく数週間単位を要し、日頃からの栄養管理が重要です。最近では高齢者のフレイル(脆弱性)が注目を集めており、日常生活において「食べること」(摂食内容・嚥下)の重要性を強調し、みなさんに周知することも私たちの重要な役目であると考えています。地域の皆様とともに「栄養管理」に取り組み、院内活動だけにとどまらない地域一体型NSTを構築し、入院前後の栄養管理(NST活動)を展開することを目指して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



NST カンファレンス



管理栄養士 9 名 (2019 年 4 月現在)

難病医療支援病院に指定されました

神経内科 部長 田中 宏明

難病とは原因・治療法が未確立で長期療養が必要な稀な病気で、難病法により現在333疾患が指定されています。神奈川県では、難病患者さんの適切な医療と療養のための「難病医療提供ネットワーク事業」として、平成31年4月に基幹となる医療機関を選定しました。当院は「難病医療支援病院」の指定を受け、かかりつけ医や「難病医療連携拠点病院」（大学病院）とも連携して難病患者さんを支援します。難病の診断や専門的治療はもちろん、「断らない救急」を掲げる当院では、状態悪化時の24時間の受け入れ体制も備えています。

各診療科で積極的に受け入れている代表的な疾患を表にあげましたが、この他にも多数の疾患に対応可能ですので、ご紹介をお願いいたします。

また難病と診断されて不安を抱えておられる患者さんや、大学病院等が遠くて通院が難しい患者さんについてもお気軽にご相談ください。

各科で対応可能な代表的難病

診療科	疾患名
神経内科	筋萎縮性側索硬化症 パーキンソン病など神経難病
リウマチ科	全身性エリテマトーデス 各種の血管炎症候群
血液内科	特発性血小板減少性紫斑病 再生不良性貧血
内分泌内科	下垂体性ホルモン分泌亢進症 下垂体機能低下症
腎臓内科	多発性のう胞腎 IgA腎症
脳神経外科	もやもや病
整形外科	後縦靭帯骨化症 黄色靭帯骨化症
耳鼻咽喉科	好酸球性副鼻腔炎 遅発性内リンパ水腫
眼科	網膜色素変性症

※上記以外にも多くの疾患に対応可能ですので、お問い合わせください。



紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通) / FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30~17:00



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

病院ホームページ

検索

